

こ みち  
教育の小径

【今月の花】  
ナadeshiko  
【花ことば】  
純愛・快活

今月の記念日

土木の日(11月18日)

土木の土が十一、木が十と八に分解されることから、十一月十八日が「土木の日」と定められました。道路や橋、港など社会の基盤となる施設や、これらの仕事に携わっている人たちの働きに対する理解と関心をもたせる機会にしたいものです。



国士舘大学教授  
北 俊夫先生

今月の  
テーマ

## 表現活動と学習評価

- 新しい学習評価では「表現」が重視されます。思考・判断したことや習得した技能を評価するために、表現活動が一層重要になります。
- 表現活動には言語と非言語によるものがあります。妥当で信頼性のある評価を行うためには、特に言語活動を充実させることが大切です。

### 表現力を育てる表現活動

子どもの学習状況を評価する際の基本となる観点が、これまでの「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」から、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」に改められました。これは、平成19年6月に一部改正された学校教育法(第30条第2項)に「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力などの能力」「主体的に学習に取り組む態度」が学力を構成する基本要素として規定されたためです。これらとの整合性が図られました。

ここで注目されることは、これまでの「思考・判断」に「表現」が付け加えられ、「技能・表現」から「表現」が削除されたことです。このことは、単に「表現が移動した」という単純なことではありません。これからは「表現」というキーワードが評価する際に課題になるだけでなく、日々の授業においても重要になります。

これまで「表現」に対して、「活動としての表現」(表現活動)と、「能力としての表現」(表現力)が使い分けられてきました。評価の観点が改められたことにより、これからは表現力を育てるための表

現活動の役割が一層問われることになります。

### 評価の観点に見る「表現」

平成22年3月に中央教育審議会教育課程部会から公表された「報告」によると、「思考・判断・表現」と「技能」の観点について、それぞれ次のように説明されています。

まず、「思考・判断・表現」は、思考・判断したことと、その内容を表現する活動を一体的に評価するとしています。ここでは、習得した知識や技能を活用して思考したり判断したりする活動を促すとともに、その内容を言語や作品などに表現させる必要があります。なぜならば、何らかの方法で表現させることによって、教師はその内容を把握し、評価することができるからです。思考・判断と表現を一体的に評価するためには、これからの授業にこのような学習活動を組み入れる必要があります。

また、「技能」については、これまで「技能・表現」で評価してきた内容を「技能」の観点で評価するとしています。趣旨はこれまでと変わらないというわけです。子どもが習得した技能の状況は、思考・判

断したことと同様に、何らかの方法で表現させなければ、教師は評価することができません。「技能」にも「表現」が位置づいているのです。

二つの観点を評価する際には、子どもの表現活動を組み入れた授業づくりを一層重視する必要があります。

### 重視したい言語活動

表現活動には、大きく言語によるものと、音楽や造形、身体など非言語によるものがあります。式や図表、グラフ、イラストなどで表現させることもあります。言語による表現活動には、話す活動と書く活動があります。

妥当性、信頼性のある評価を実施するためには、やはり書かせることが重要です。発言などの表現は一過性であるのに対して、書いたものは残るからです。すべての子どもを同等にかつ公平に評価することができます。

今回の学習指導要領では、各教科において言語活動を充実させることが重視されています。特に書くといった言語活動は、「思考・判断・表現」や「技能」の観点の評価をより確かに実施するためにも重視したい活動です。

学校には、道徳教育をはじめ、特別活動、食に関する指導（食育）など、さまざまな教育課題に対して「全体計画」を作成することが求められています。総合的な学習の時間の「全体計画」もその一つです。

総合的な学習の時間に何をどう取り上げるかは、各学校で決定することができますようになってきました。そのために、一人一人の教師はそれぞれの思いで創意工夫を発揮しながら、特色ある実践を展開しています。このこと自体重要なことですが、学校としての統一性や一体感に欠けることにもなります。「各学校で」とは、校長が中心になって、まず基本計画に当たる「全体計画」を学校として策定することです。これにもとづいて各学級や学年の実践が行われることが望まれます。

「全体計画」には、学校としての総合的な学習の時間の目標はもとより、各学年の目標や内容を設定します。教材や学習活動の系統性やバランスを明確にしておくことも大切です。このことによって、各学年の実践に当たって指導の目安が明確になります。学校としての基本計画である「全体計画」をよりどころに、各学級・学年の指導計画（実施計画）を作成します。その結果、小学校では4年間を見通した系統的、発展的な指導が可能になります。

授業を計画するとき、本時の学習をどのように終了させるということはきわめて重要です。何の確認もしないままに終わったり、尻切れになったりすることは避けたいものです。

本時の終末で教師が「今日の学習の感想を書きましょう」と問いかけ、子どもたちに自由に書せる場面に出会います。せっかく書かせるのであれば、本時の「学習のめあて」に立ち返り、めあてについて分かったことや学んだことを書くように、書く内容を明確に指示してはどうでしょうか。これに感想を付け加えることはよいでしょう。

本時のめあては、教師の設定した本時の目標（ねらい）と一体の関係にあります。そのため、子どもたちが書い

た「まとめ」の内容は、目標に照らして評価する際に評価の対象として活用することができます。書かせるときには、本時の学習で登場したいくつかの重要なキーワードや書く分量を予め指示しておくといよいでしょう。書いたあとに数人の子どもに発表させると、その時間の大切な学習内容を学級全体で確かめ合うことができます。

本時のまとめを書く場面は、子どもが本時の学習を振り返り、学習の成果を確認する重要な機会です。



教育キーワード 養成・採用・研修

平成22年6月、文部科学大臣は中央教育審議会に「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」諮問しました。現在、特別部会で審議中です。

従来、教員の養成と採用と研修の問題はそれぞれに検討されてきました。今回の諮問は、養成と採用と研修の各段階を通じた一体的・総合的な取り組みについて検討し、教職生活の全体の

なかで教員の資質能力の向上や専門性の高度化を図ろうとするものです。

一人の教員は養成と採用と研修の各段階を踏んでいきますから、大学に入学してから教職生活を終える定年を迎えるまでを包括的に検討することが重要になります。いわば18歳から60歳（現在）までを見通した資質能力の向上策について検討するものです。審議の経緯を注視していきたいものです。

学級通信に使える今月のイラスト



落ち葉



芸術の秋

編集後記

先生方のご支持に支えられ、小誌も今号で3年目に入りました。誌面も少し模様替えを行いました。新コーナー「今月の記念日」では、記念日にまつわるミニ解説を紹介します。今後ともよろしくお願い致します。(H記)



企画・編集 ばんけい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂 発行日：2010年11月1日

Information (PR)

好評! 授業づくりシリーズ



4冊セット (9,030円税込) もご用意しました!

- ◎国語・算数・理科…各2,310円(税込)
- ◎社会…2,100円(税込)

発行 株式会社文溪堂